

導入機能

道の駅として必要な導入機能の検討

整備コンセプトと基本方針を踏まえ、「道の駅」に求められる機能をどのように満たしていくかについての基本的な考え方を以下に示します。

導入機能 1 | 休憩機能

1 | 駐車場施設

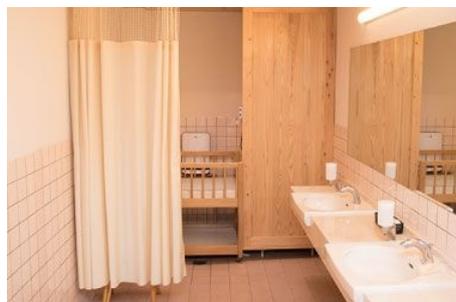
- ・ 24 時間利用可能で、交通量や施設利用に応じた駐車台数を確保した駐車場を整備します。
- ・ 案内、誘導サインの充実を図ります。
- ・ 電気自動車等、PHV等での利用に対応したEV充電設備を設置します。



(整備イメージ 1) 道の駅なかつ EV 充電施設

2 | トイレ施設

- ・ 24 時間利用可能で、道路利用者や施設利用者の規模に応じたトイレを整備します。
- ・ 誰もが安心して利用しやすいユニバーサルデザインの施設とします。
- ・ 明るく清潔で、パウダールームなどがある女性に配慮したトイレとします。
- ・ ベビーカーを利用する方も使用しやすいトイレやオムツの交換スペースの設置、多目的トイレ等、妊婦や乳幼児連れ、身体の不自由な利用者に配慮します。



(整備イメージ 2) 道の駅とみうら 枇杷倶楽部授乳室などを整備

3 | 休憩施設

- ・ 「県指定文化財（名勝）牛之浜海岸」から一望する東シナ海を眺めながら、訪問者がリラックスできる滞在空間を整備します。
- ・ 道路利用者や市民がゆったりと過ごせるベンチ、木陰の設置等、居心地の良い空間づくりとします。
- ・ 休憩空間については、多種多様な催し物等が可能なイベント空間としての活用も検討します。
- ・ 利用者にとって、休憩時間や休憩形態を自由に選択できるような施設（足湯など）の整備を検討します。



(整備イメージ 3) 道の駅たるみず

導入機能 2 | 情報発信機能

1 | ビジターセンター

- ・道路情報や災害情報、南九州西岸地域の旬な情報(特産品、観光施設、グルメ、イベント、自然、歴史・文化、自治体発行の各種パンフレットなど)を総合的に網羅するとともに、近隣地域の施設利用や宿泊等の予約なども可能な南九州西岸地域総合案内としての機能を有する、ビジターセンターの整備を検討します。
- ・訪日外国人旅行者の受入環境の向上を図るため、日本政府観光局(JNTO)認定外国人案内所の認定に向けた取組を推進します。



(整備イメージ) 1) 箱根ビジターセンター:神奈川県
地図と映像での情報提供

2 | 多様な案内施設

- ・利用者の多様なニーズに対応し、よりきめ細かいサービス案内を行う『コンシェルジュ』を配置します。
- ・「薩摩よりみち風景街道」や「道守かごしま会議¹⁾」の活動内容と連携した取組の展開やその活動拠点としての活用を図ります。
- ・南九州西岸地域を含めた北薩地域の魅力をより広域的かつ効率的に提供するため、ホームページ、アプリ、SNS等を活用した情報発信ツールの開発を検討します。
- ・無料Wi-Fi、「道の駅 SPOT」など利用者サービス機能を提供します。



(事例)大分県 里の駅
ふるさとを代表する各種の施設(温泉や宿泊施設、農林産物直売所など)を登録

1 道守かごしま会議

- ・「道」を舞台に、あるいはテーマに様々な活動を行っている人々を「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。
- ・「道守かごしま会議」は、「道守九州会議」を母体とし、鹿児島県で「道」に関するさまざまな活動を行う人々や団体が構成する民主主体の任意団体で、民と行政との「協働」を基本に活動しています。
- ・主な活動として、「道端の清掃・美化」、「標識類や危険箇所の点検・提言」、「安全円滑な道への調査・研究・実践」、「道の歴史や文化の発掘・継承・活用」などを行っています

1 | 飲食施設

- ・眺めのよい立地の良さを最大限に活用し、南九州西岸地域の豊富な農産物（柑橘類、ばれいしょなど）新鮮な海の幸（アジ、鰯など）山の幸（ジビエなど）を活用した料理や会話がゆったりと楽しめる飲食施設を整備します。
- ・市民も含めた利用者のニーズに合わせた多様な飲食スタイルで提供できるような施設構成（レストラン、喫茶・カフェなど）とします。
- ・利用者に常に楽しんでもらえるよう、利用者のニーズを把握するとともに、地域の生産者等も参加した形でのメニューの開発に努めます。
- ・コミュニティや地元高校と連携したメニューを提供します。
- ・近隣の「道の駅」のレストラン、軽食等のグルメ情報を紹介し、他の「道の駅」も含めた利用促進を図ります。



(整備イメージ 1) 道の駅「花の駅・千曲川」

2 | 農林水産物直売・物産施設

- ・南九州西岸地域の豊かな自然の恵みである農林水産物や地場産品、加工品など、個性があふれる良質な産地直送品について、いわゆる“浜値”等できるだけ安く購入できる特色ある農林水産物直売・物産施設を整備します。
- ・市内専門店や薩摩川内市、長島町の特産品等が手に入るような物販施設とします。
- ・利用者が商品を選びやすいよう、また、楽しんで買い物をしてもらえるような展示方法等を検討します。
- ・新鮮さと品ぞろえを確保するための仕組みや取組について検討します。
- ・薩摩川内市、長島町の「道の駅」の物産施設の紹介や、「道の駅」の相互連携による特産品フェアを各「道の駅」持ち回りで行うなど、近隣の「道の駅」との物販に関する連携を検討します。
- ・生産者に会う、生産工程を知る、食材の調理方法を学ぶ等、地元の食材をより深く知るきっかけとなる場の提供や機能を検討します。
- ・農林水産物や地場産品、加工品の受け継がれた技法や新しい取り組みなどを学ぶ場としての機能を検討します。
- ・物産施設については、外国人旅行者に対応するため免税店とします。



(整備イメージ 2) 道の駅 今井恵みの里
農産物の加工場(ジャム製造)を併設



(整備イメージ 3) 道の駅 今井恵みの里
農産物の加工場(そば製造室)を併設

3 | 地域コミュニティ施設

- ・市民のコミュニティ形成を図るため、地域活動や生涯学習、研修、イベントなど、多種多様なコミュニティの集まりに使いやすいフリースペースなどを確保したコミュニティ施設の整備を検討します。
- ・地域活動（絵画、写真、ボランティア）の活動成果の発表や地元企業、偉人の紹介など、本市の魅力、文化等に関する展示コーナーの設置について検討します。
- ・近隣のぼんたん加工場や水産加工施設と連携し、ぼんたん狩りや加工体験、漁業体験など、地域に波及する新たな魅力を引き出すような取組を検討します。
- ・各年齢層の子どもやその保護者を対象として親子で楽しく遊べる場、子育て情報スペース等、健やかに成長する機会を提供できる場とします。
- ・市民の日常生活に関わる利便機能として、ATMが設置されたコンビニエンスストア、市民向けの生活情報（医療、求人、住宅等）・サービス（住民票交付等）を提供できる設備等の設置を検討します。



(整備イメージ4) わいわいコンテナ 佐賀市
特徴ある3つのコンテナ(図書館、子どもからお年寄りまで利用可能な交流スペース、市民のアイデアと工夫で様々な使い方ができるチャレンジスペース)を街なかに設置

4 | 防災施設

- ・南九州西回り自動車道は、大規模災害時における緊急輸送道路という役割も担う道路であり、道の駅がインターチェンジに近接するという立地特性を生かし、巨大地震や津波、集中豪雨、また桜島噴火等の大規模災害が発生した際の広域防災活動の拠点施設としての機能をもつよう整備します。
- ・薩摩川内市に立地する川内原子力発電所において不測の事態が発生した際の情報提供拠点や広域避難の集合場所としての検討を行います。
- ・大規模災害発生時に、自衛隊をはじめとする災害派遣の集結拠点として、また道路利用者や被災者の一時的な避難施設としての機能を持たせます。
- ・広域的な防災拠点として、物資の輸送・供給拠点を想定した、「備蓄倉庫」を整備します。
- ・災害時でも水、電気、トイレ等の使用ができるよう非常電源、非常用貯水槽等の施設整備を検討します。
- ・AED（自動体外式除細動器）を設置するとともに、万が一の際、適切な運用ができるように施設スタッフに対して講習会を実施します。
- ・津波対策等の地域防災の拠点として防災訓練を実施します。
- ・「道の駅」を防災施設として、地域防災計画等に明確に位置づけます。



(整備イメージ5) 東京都武蔵野市
平常時は憩いの場等で活用



(整備イメージ6) 防災倉庫備蓄品

5 | その他

- ・ユニバーサルデザインの導入により誰もが安心して利用できる施設にします。
- ・外国人旅行者に対応するため、各施設に多言語標記やピクトグラム^{*1}を活用します。
- ・環境対策として保全と活用が図られ、省エネルギーで環境負荷の少ない施設（LED照明、高断熱材使用等）及び利用しやすい施設整備を検討します。
- ・道の駅内施設（照明施設など）や災害時のトイレや照明等の電源に利用できる再生可能エネルギーの導入を検討します。
- ・周辺イメージを損なわず、夜景（照明）などの美観にも配慮した施設整備を検討します。

1 ピクトグラム：一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つ

「道の駅」阿久根を考慮した機能配置方針

「道の駅」サンセット牛之浜景勝地から約 1km の位置に「道の駅」阿久根があります。

「道の駅」阿久根の方向性については、平成 29 年度に設置した阿久根市物産館等構想検討会議において、サンセット牛之浜景勝地「道の駅」が具現化したあとの中長期的な方針として、「日常的に利用できるようなカフェやサイクリングで海岸線を走行する方の休憩、地域住民ニーズに合った販売拠点などの機能を持った施設に移行させる」ことにより、サンセット牛之浜景勝地「道の駅」との機能のすみ分けを図る方向で整理されています。

～ 阿久根市物産館等構想検討会議の検討結果概要～

【検討目的】

サンセット牛之浜景勝地構想による新しい道の駅建設構想を進めるに当たって、既設の道の駅である「道の駅」阿久根とのすみ分けを図るために、「道の駅」阿久根が、今後どのような機能を果たすべきかを検討した。

【検討結果】

- 「道の駅」阿久根については、本市南のゲートウェイとしての、観光のシンボリック施設、また、物産販売の拠点としての役割の強化に努め、収益の増加を目指していくものとする。
- サンセット牛之浜景勝地道の駅が具現化した際は、「道の駅」阿久根については、日常的に利用できるようなカフェやサイクリングで海岸線を走行する方の休憩、地域住民ニーズに合った販売拠点（コンビニエンスストア等）などの機能を持った施設に移行させるものとする。

1 施設（建物）について

大規模な改修等は基本的に行わず、既存施設を適切に維持管理する。

2 販売（物産・サービス）について

- (1) 地元利用者のニーズに呼応した販売、高齢者の生きがい創出の場所を目指す。
- (2) 将来的には、カフェやコンビニエンスストア等の導入により、地域住民の生活に密着した場所として、かつ、地域産品も積極的に取扱い、地域コミュニティの拠点としての機能も兼ね備えた施設運営を目指す。

3 レストランについて

現在の看板メニューに加え、必要に応じて「ここでしか食べられない」というこだわりのメニューを開発するとともに、広報を拡充し、知名度を上げる。

4 駐車場について

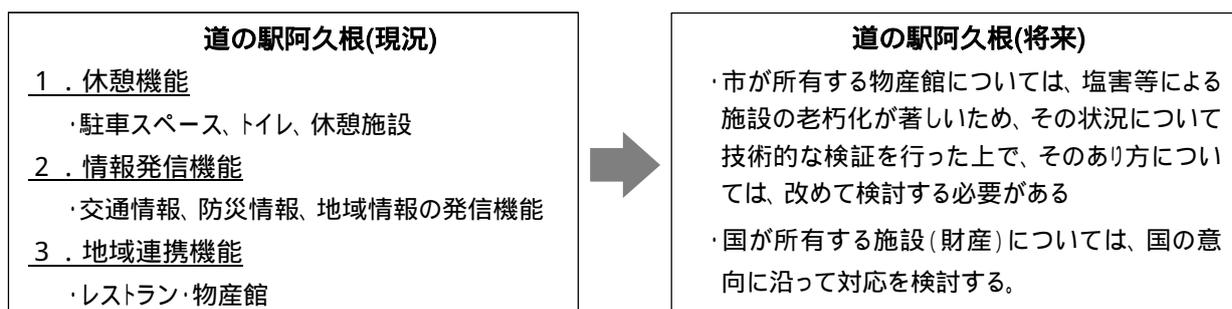
- (1) 駐車場不足については、地理的に海側への拡張や急傾斜地である山側への拡張は物理的に困難であるため、新たな拡充整備は行わず、利用におけるマネー向上を目指す。
- (2) キャンピングカー等の長時間駐車への対応を検討する。

しかしながら、仮に「道の駅」阿久根とサンセット牛之浜景勝地とがわずか約1kmの距離に隣接して併存すると、下記の点が懸念されます。

【併存して立地した場合のデメリット】

- ・同一自治体が設置する道の駅が近接して立地する場合、施設の維持管理及びそれに係る費用をそれぞれ確保する必要があるため、道の駅の維持管理の効率性に課題が生じます。
- ・それぞれの道の駅の飲食・物販機能が競合することになるため、道の駅の運営上の課題が生じます。
- ・上記に関して、例えば、飲食機能のレストランとカフェのすみ分けを行うことが考えられますが、売上げに差が生じるなどの道の駅運営上の新たな課題が生じること、また、道の駅利用者の多様なニーズに対応できないため、利用者の利便性低下につながるなどの課題も生じます。
- ・南九州西回り自動車道、国道3号に2つの道の駅の案内表示が必要となることや、同様の情報発信機能(道路交通情報、災害情報、地域情報)を新たに設置することになり、情報発信の効率性に係る課題が生じます。

したがって、現況の「道の駅」阿久根の休憩機能、情報発信機能、地域連携機能(物販・飲食)は全て、南九州西回り自動車道の開通に伴う交通需要の増加や、南九州西岸地域の広域連携に対応した施設内容・規模にリニューアルしてサンセット牛之浜景勝地「道の駅」に機能移転を図るものとし、今後の道の駅に求められる機能を確保するため、地域コミュニティ機能、防災機能についても、一体的に配置する方針とします。



リニューアルして機能移転

サンセット牛之浜景勝地「道の駅」

～南九州西回り自動車道・国道3号利用者を対象とした広域的な対応を図る拠点機能の集積～

1. 休憩機能
 - ・南九州西回り自動車道交通量に対応した駐車スペース、トイレ、休憩施設(眺望空間、休憩スペース、広場等)
2. 情報発信機能
 - ・広域的な情報発信機能としてのビジターセンター
 - ・ホームページ、アプリ、SNS等を活用した情報発信ツールの開発・提供拠点
 - ・無料Wi-Fi、「道の駅スポット」
3. 地域連携機能
 - ・立地の良さを最大限に活用した眺めのよいレストランで地域の食材を用いた料理や会話をゆったりと楽しめる飲食施設(レストラン、カフェ)
 - ・阿久根市及び近隣地域の豊かな自然の恵みである農林水産物や地場産品の提供
 - ・地域コミュニティ活動や防災啓発活動等に活用できるフリースペース、市民向け生活情報提供設備などを備えた市民交流コミュニティ施設
4. 防災拠点機能
 - ・大規模災害発生時の自衛隊をはじめ災害派遣の集結拠点、道路利用者や被災者の一時的な避難施設
 - ・広域的な防災拠点として、物資の輸送・供給拠点を想定した、「備蓄倉庫」、「非常用電源」、「非常用貯水槽」の整備